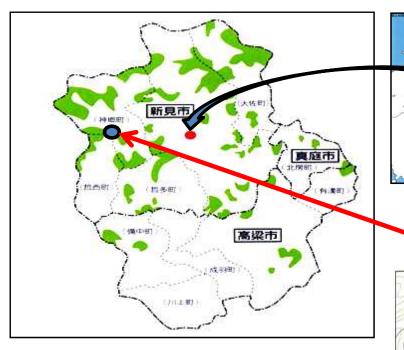
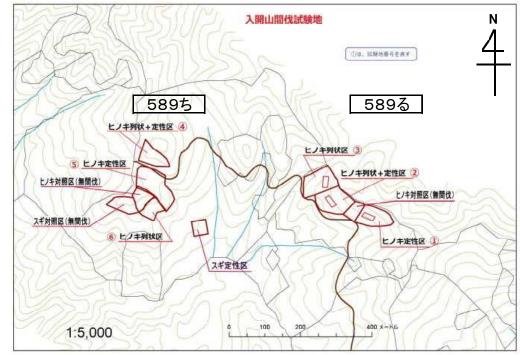
課題	62 搬出間伐促進のための林業技術開発(搬出間伐促進マニュアルの作成)				開発期間	平成23	3年度~平成2	2 5 年度
開発箇所	入開山国有林5895外	所在市町村名	新見市	共 同 研究機関	森林総研関西	支所	技術開発 目 標	1 (3)
開発目的(数値目標)	定性間伐と列状間伐を組みる 率(20%)の倍増の実現をめ		ī法を確立するとともに、	将来林分像等	等を森林所有	者等に提示するこ	ことにより、キ	地域の搬出間伐
実施経過	平成22年度 試験地設定のため事前調査 共同研究機関、関係機関等と 可研究機関、関係機関等と 可以23年度 試験地設定 立木位置調査 平成24年度 ・間伐の実施 ・コスト・功程調査 ・相対照度調査(間伐前) プロット①から③及び対象を ・相対照度調査(間伐後) プロット①から③及び対象を ・別状間伐	☑の照度を測定						
開発成果等	施業履歴の違う区域(初回間 ①定性区、②定性区+列状区、 平成24年度間伐を実施。伐倒 伐倒作業(1時間当り伐倒木 いこと、伐採木から伐倒木への 集材作業(1時間当り集材が 区はほぼ同じであった。理由と くまとまった数量の集材が可能 「今後の予定」 今後は、課題番号35「列状間 ルを作成することとしている。	③定性区に区分別・集材について医物ののでは、定性区のでを対象動時間が短から数)には、の列といるであったことであったことである。	・し試験地を設定。 ・功程調査行った。 区く定性区+列状区<列状のかったことが考えられる ・、定性区≧定性区+列状 では採していることから、 荷掛け手の移動時間(距	大区と、列状[ )。 大区 < 列状区。 集材する木 <sup>〕</sup> 離)が短かっ	区が伐倒本数だと、列状区の9 が列状に集まったことが考え	が多かった。理E 集材本数が多かっ っており、スイン られる。	由としては、抗った。定性区の ングヤーダを利	卦かり木が少な と定性区+列状 多動することな





入開山国有林

○試験地 岡山県新見市 入開山国有林 589る・ち林小班



#### ○試験地別施業履歴 平成24年度実行 搬出間伐 試験区/林小班 初回間伐 2回目間伐 ①定性区 定性間伐 定性 平成2年 平成24年 1伐3残 589る 列状間伐 1伐4残 (43年生) 列状+定性 ②定性区+列状区 (21年生) 定性 スイングヤーダ スカイキャリー ③列状区 列状間伐 1伐2残 試験区/林小班 初回間伐 2回目間伐 3回目間伐 平成14年 1伐3残 ④定性区+列状区 列状間伐 列状+定性 平成3年 1伐3残 平成24年 (42年生) 定性 589ち 列状間伐 1伐4残 (52年生) (31年生) ④タワーヤーダ ⑤ウインチ スイングヤーダ スカイキャリー 定性 ⑤定性区 定性間伐 定性間伐 定性 試験区/林小班 初回間伐 平成24年 列状間伐 ⑥列状区 589ち (52年生) 1伐3残 スイングヤーダ

### OH24年度搬出間伐実行前後の試験地別現況

				間伐前現況			間伐後現況									
試験区	林小班	区域 面積	試験地面積	平均 胸高	平均 樹高	ha当り	ha当り	Rv	平均 胸高	平均 樹高	ha当り	ha当り	Rv	間位	<b>文</b> 率	
		(ha)	(na)	la) (ha)	直径 (cm)	(m)	本数(本)	蓄積(m3)	TVy	直径 (cm)	(m) 本数	本数(本)	蓄積(m3)	TVy	本数率 (%)	材積率 (%)
①定性区		0.44	0.04	20.6	17.6	2,020	632	0.94	21.6	17.8	1,281	439	0.82	36.6%	30.6%	
②列状+定性区	589る	0.58	0.04	21.1	16.8	1,675	526	0.87	22.2	17.0	1,075	365	0.72	35.8%	30.7%	
③列状区		0.54	0.04	23.1	17.8	1,560	595	0.88	23.1	17.6	1,151	437	0.77	26.2%	26.6%	
④列状+定性区		0.33	0.33	23.0	17.3	1,112	427	0.75	24.6	17.6	731	319	0.61	34.3%	25.4%	
⑤定性区	589ち	0.69	0.69	24.0	18.7	952	427	0.74	25.9	19.3	623	319	0.63	34.6%	25.2%	
⑥列状区		0.24	0.24	19.4	19.7	2,097	689	1.00	19.9	19.8	1,572	541	0.94	25.0%	21.5%	

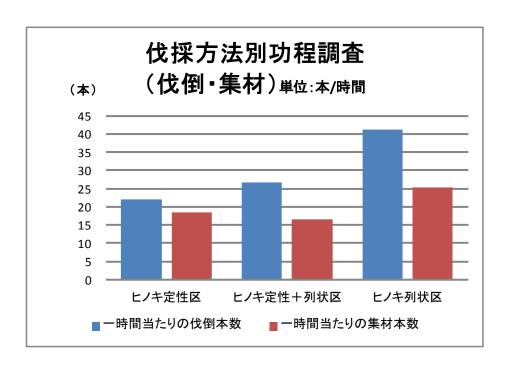
# 〇伐採方法別功程調査(伐倒・集材)

伐 倒	作	業	本数	総時間 (分)	一時間当たり の伐倒本数
①⑤定性	区		417	1134	22
24定性	十列	状区	395	885	27
36列状	区		263	381	41

集材作業	本数	総時間 (分)	一時間当たり の集材本数
①⑤定性区	317	1035	18
②④定性+列状区	354	1275	17
36列状区	218	514	25

### 生産性

<u> </u>			
間伐面積 (ha)	生産量 (m3)	生産コスト (円/m3)	労働生産 性
(IIII)	(1110)	(1 ]/ 1110/	1-1-
42.27	3,427	10,257	8.83



間伐前後の相対照度

単	什	Lx/	Ή
	<u></u>	_^/	

		<u> 후 [월 . LA/ 11</u>		
天候	曇り	曇り		
地 点	間伐前 (H24.9.20)	間伐後 (H25.10.3)		
①ヒノキ定性区	2.3	23.2		
②ヒノキ列状+定性区	3.3	27.7		
③ヒノキ列状区	2.4	25.6		
無間伐区	2.4	3.3		

### OH24年度間伐 作業システム



集材(スイングヤーダ)



造材(プロセッサ)



運材及び集積(フォワーダ、グラップル)

## OH24年度 間伐実施後の状況



③列状区(2回目間伐)



④定性区+列状区(3回目間伐)



⑤定性区(3回目間伐)